

“ちいさな企業” 成長本部（京都府京丹後市）
議事概要

中小企業庁

- ・ 日時：平成25年11月28日（木） 15：30～17：30
- ・ 場所：京都府京丹後市（プラザホテル吉翠苑）
- ・ 「“ちいさな企業” 成長本部」行動計画等に関する取組をご紹介いただくとともに、意見交換を行った。
- ・ 参加者からの主なご意見は以下のとおり。

＜中小企業・小規模事業者＞

- 中小企業の経営者は、補助金の情報に鈍感。もっと施策情報を届けてほしい。
- 新しいことを始めるには、経験したことのない企画力が必要となり、また資金面でも苦労する。小さな企業として存続していくためには、既存の仕事をリストラしながら、より現代のビジネススタイルにマッチする形に変えなければならないが、それには資金が必要で、金融機関から借り入れているが、その返済が終わらないうちに次の事業に移行するような時代になっており、自社の新陳代謝がうまくいっていない。
- 海外の販路開拓のための支援がほしい。自分たちだけでは力もなく難しい。
- 自社の強みは何かと考え、丹後の糸と機械金属の技術を合わせて、新素材の開発に取り組み、ものづくり補助金の採択を受けた。
- 自分たちの強みを、どう生かしていけるかが分からない。持っている強みを開拓し、また成長分野への参入を繋いでくれるような、コーディネート支援がほしい。
- 下請に徹するのか、自社ブランドを立ち上げるのか、選択は悩ましい。一番困ったことは、マーケティング。丹後に住んでいると東京のマーケットが全然分からないので、自らで足を運んできたが、これらをコーディネートしてくれるような支援があるとありがたい。

- 小規模事業者は少人数のため、ひとりで何役もこなしていることが多く、商工会主催で勉強会などを行っても、来ることができない事業者は多い。
- 高齢で、パソコンやネットに詳しくない事業者も多い。ミラサポを見てみたが、これを使いこなすのは難しいと思うので、もっと工夫があるといいと思う。
- 以前、資金繰りで大変苦労した。保証協会絡みでないと借りられないことがほとんどだったが、それでも大変だった。金融機関も、リスクをはった支援をしてほしい。

＜支援機関等＞

- 支援メニューは、かなりの内容が揃っていると思うが、活用はまだまだ。また、認定支援機関同士の連携、既存の支援機関との横串的な連携が必要。
- 補助金の公募期間がとても短く、申請のタイミングを合わせるのが難しい。また、次の公募がいつあるかというのも見えない。年間スケジュールのような、前もった情報があるとありがたい。
- 経営改善計画の策定支援をしているが、府北部は専門家が少なく、また育成も難しい。専門家も大勢登録されているので、誰を選んだらよいか分からないと思う。もっと利用しやすい仕組みに変えてほしい。
- 認定支援機関向けの研修について、地方では機会はまだ少ない。もっと研修の機会を増やしてほしい。
- 経営計画の作成に、税理士のノウハウだけでは不足、他の士業の方とネットワークを持っていないと難しい。そういった点でも、地方では人材不足が顕著。



以上